平成25年３月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月８日

上 場 会 社 名	株式会社ＡＯＫＩホールディングス	上場取引所	東・大
コ ー ド 番 号	8214　URL http://www.aoki-hd.co.jp/		
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長	（氏名） 青木　彰宏	
問合せ先責任者	（役職名） 取締役副社長	（氏名） 田村　春生	(TEL) 045-941-1388
四半期報告書提出予定日	平成24年11月12日	配当支払開始予定日	平成24年12月５日

四半期決算補足説明資料作成の有無　　：有
四半期決算説明会開催の有無　　：有 （機関投資家、アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第２四半期の連結業績（平成24年４月１日～平成24年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年３月期第２四半期	67,425	8.8	3,083	34.2	3,263	15.8	1,901	23.7
24年３月期第２四半期	61,945	5.7	2,297	7.7	2,818	3.2	1,537	244.5

(注) 包括利益　25年３月期第２四半期　1,770百万円(14.7%)　24年３月期第２四半期　1,544百万円(627.1%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年３月期第２四半期	45.63	45.58
24年３月期第２四半期	36.04	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年３月期第２四半期	173,431	104,745	60.3
24年３月期	176,779	103,994	58.6

(参考) 自己資本　25年３月期第２四半期 104,529百万円　24年３月期 103,589百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年３月期	―	15.00	―	20.00	35.00
25年３月期	―	20.00			
25年３月期(予想)			―	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．平成25年３月期の連結業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	155,830	6.3	15,200	10.4	15,700	7.6	8,250	16.4	197.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：有

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　　：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：有

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：有

④　修正再表示　　：無

（注）第１四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料４ページ「２.サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年３月期２Ｑ	46,624,752株	24年３月期	46,624,752株
②　期末自己株式数	25年３月期２Ｑ	4,953,104株	24年３月期	4,954,568株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年３月期２Ｑ	41,671,220株	24年３月期２Ｑ	42,670,995株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（業績予想の適切な利用に関する説明）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料３ページ「（３）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

（決算説明会資料について）

・当社は、平成24年11月22日(木)に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この決算説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

頁

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 ……4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……4
３．四半期連結財務諸表 ……5
（１）四半期連結貸借対照表 ……5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……7
四半期連結損益計算書 ……7
四半期連結包括利益計算書 ……8
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ……9
（４）継続企業の前提に関する注記 ……10
（５）セグメント情報 ……10
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……11
（７）重要な後発事象 ……11

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間における我が国経済は、震災復興関連の需要等を背景に緩やかな回復傾向で推移したものの、欧州の債務問題や海外経済の減速などから先行き不透明な状況が継続しております。また、当業界におきましては、不安定な経済状況、天候要因やライフスタイルの変化等により消費動向に変化が見られるものの概ね堅調に推移いたしました。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は674億25百万円（前年同期比8.8%増）、営業利益は30億83百万円（前年同期比34.2%増）、経常利益は32億63百万円（前年同期比15.8%増）、四半期純利益は19億１百万円（前年同期比23.7%増）と増収増益になりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

（ファッション事業）

ＡＯＫＩでは、「熱ブロックシリーズ」、「プレミアムウォッシュシリーズ」、「ＢＩＺ－ＴＥＣＨパンツ」やアクティブなビジネスマンスタイルと大人のお出かけスタイルを提案した「ＣＡＦＥ　ＳＯＨＯ」等クールビズ関連商品の品揃え・販促・演出・販売・売場環境等を強化するとともに、引き続き好調に推移しているレディス商品を拡充し、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、駅前立地の２店舗を含む10店舗を新規出店する一方、移転等による８店舗を閉鎖した結果、当第２四半期末の店舗数は442店舗（前期末440店舗）となりました。

ＯＲＩＨＩＣＡ（オリヒカ）は、ジャケット・スラックススタイルの着回し提案を強化するとともに、駅ビルやファッションビルに対応し新しいタイプの店舗デザインを導入した名古屋パルコ店や調布パルコ店を含む８店舗を出店し重点エリアのドミナント化を図る一方、１店舗を閉鎖した結果、当第２四半期末の店舗数は98店舗（前期末91店舗）となりました。

これらの結果、スーツ・フォーマルが堅調に推移したこととジャケット・スラックス等のクールビズ関連商品やレディス商品が好調に推移し、第２四半期累計期間の既存店売上高が前年を上回ったこと及び新規出店効果により、売上高は402億27百万円（前年同期比9.6%増)、営業利益は10億58百万円（前年同期比67.3%増）と増収増益になりました。

（アニヴェルセル・ブライダル事業）

ゲストハウスウエディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、既存店の活性化として多様化するウエディングに対するニーズやトレンドに応えるため４施設のリニューアルを実施いたしました。また料飲の販売強化と優秀スタッフのノウハウ共有に注力するとともに、引き続きコスト削減にも取組みました。

これらの結果、平均組単価の上昇とコスト削減効果により売上総利益率が改善し、売上高は116億18百万円（前年同期比4.1%増)、営業利益は12億37百万円（前年同期比126.7%増）と増収、大幅増益になりました。

（カラオケルーム運営事業）

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、夏の販促企画として有名アーティストや人気キャラクター、テレビ局等とのコラボレーションキャンペーンを実施し認知度の向上と来店促進を図りました。また、全面リニューアルの16店舗を含む22店舗のリニューアルを実施するとともに夏のパーティープランや期間限定メニューの提案を強化するなど、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では駅前を中心に７店舗を新規出店する一方、営業効率改善のため２店舗を閉鎖した結果、当第２四半期末の店舗数は、137店舗（前期末132店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果等により、売上高は71億75百万円（前年同期比5.8%増）、営業利益は既存店強化のためのリニューアル費用等が増加し４億21百万円（前年同期比24.1%減）となりました。

（複合カフェ運営事業）

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、オンラインダーツ等のアミューズメントコンテンツ拡充のために15店舗をリニューアルし、また、ゲーム関連企業とのタイアップ企画等により来店促進を図りました。店舗面では秋田県、香川県、山口県への初出店を含め積極的に19店舗を新規出店する一方、１店舗を閉鎖した結果、当第２四半期末の店舗数は190店舗（前期末172店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果と避暑利用等により客数が増加し、既存店が堅調に推移したことにより、売上高は84億24百万円（前年同期比15.2%増）、営業利益は新規出店の増加に伴う費用等が増加し６億68百万円（前年同期比13.7%減）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第２四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ33億48百万円減少し、1,734億31百万円となりました。

流動資産は、新規出店等によりたな卸資産が18億78百万円増加した一方、設備投資や法人税等の支払い等による現金及び預金が62億50百万円、売掛金が回収等により42億21百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ84億31百万円減少いたしました。固定資産は、新規出店等による有形固定資産が48億40百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ50億82百万円増加いたしました。

（負債）

流動負債は、短期借入金が60億円増加した一方、季節的要因等により買掛金が28億３百万円、法人税等の支払いによる未払法人税等が26億70百万円、未払金等のその他が11億42百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ16億９百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により28億48百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ24億89百万円減少いたしました。

（純資産）

純資産の部は、四半期純利益等による利益剰余金が10億68百万円増加したこと等により７億50百万円増加しております。

② キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、前連結会計年度末と比べ62億50百万円減少し、168億58百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により使用した資金は、９百万円（前年同期は32億45百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が33億51百万円、減価償却費が31億25百万円となった一方、仕入債務の減少による支出が28億３百万円、法人税等の支払額及び還付額の純支出額が41億70百万円となったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、72億24百万円（前年同期は35億42百万円）となりました。これは主に、新規出店等に伴う有形固定資産の取得60億６百万円、敷金及び保証金の差入10億51百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は、９億84百万円（前年同期は46億81百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の約定返済が34億12百万円及び配当金の支払いが８億33百万円、リース債務の返済による支出が７億60百万円となった一方、短期借入を60億円実施したことによるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間の実績は、各事業とも予想をやや上回る状況で推移しており、通期連結業績予想については、これをベースに出店計画等の見直しを行い、売上高を９億30百万円、営業利益を６億円、経常利益を３億50百万円、当期純利益を５億50百万円それぞれ上方修正いたしました。新規出店はファッション事業で期初40店舗を45店舗に、複合カフェ運営事業で期初30店舗を40店舗に変更しております。

なお、セグメント別業績は、以下のとおり予想しております。

【平成25年３月期のセグメント別予想】

	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	連結
売上高(百万円)	99,400	24,120	15,400	16,950	155,830
前期比(%)	105.5	102.9	107.6	116.0	106.3
セグメント利益(百万円)	10,500	2,750	1,440	910	15,200
前期比(%)	105.2	131.8	107.6	102.5	110.4

（注）セグメント利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメントの合計と連結との差異は、連結上の調整額です。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第２四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ29百万円増加しております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成24年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,108	16,858
売掛金	6,980	2,758
たな卸資産	16,058	17,936
その他	6,788	6,949
貸倒引当金	△11	△9
流動資産合計	52,924	44,493
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	41,775	43,475
土地	31,477	31,528
その他（純額）	9,803	12,892
有形固定資産合計	83,055	87,896
無形固定資産	4,897	5,309
投資その他の資産		
差入保証金	8,857	8,330
敷金	17,146	17,525
その他	9,942	9,921
貸倒引当金	△44	△44
投資その他の資産合計	35,902	35,732
固定資産合計	123,854	128,937
資産合計	176,779	173,431
負債の部		
流動負債		
買掛金	15,053	12,250
短期借入金	―	6,000
1年内返済予定の長期借入金	6,518	5,954
未払法人税等	3,760	1,089
賞与引当金	1,786	1,465
役員賞与引当金	177	70
その他	10,128	8,985
流動負債合計	37,425	35,816
固定負債		
長期借入金	24,057	21,209
退職給付引当金	722	787
役員退職慰労引当金	1,511	1,571
ポイント引当金	717	757
資産除去債務	3,344	3,504
負ののれん	1,135	921
その他	3,871	4,118
固定負債合計	35,359	32,869
負債合計	72,784	68,685

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成24年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	22,586	22,587
利益剰余金	63,252	64,320
自己株式	△5,532	△5,531
株主資本合計	103,588	104,659
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	△129
その他の包括利益累計額合計	1	△129
新株予約権	405	215
純資産合計	103,994	104,745
負債純資産合計	176,779	173,431

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日）
売上高	61,945	67,425
売上原価	34,596	36,588
売上総利益	27,349	30,836
販売費及び一般管理費	25,052	27,753
営業利益	2,297	3,083
営業外収益		
受取利息	35	41
受取配当金	60	29
不動産賃貸料	443	398
負ののれん償却額	486	486
その他	264	195
営業外収益合計	1,290	1,150
営業外費用		
支払利息	162	150
不動産賃貸費用	420	365
その他	186	453
営業外費用合計	768	970
経常利益	2,818	3,263
特別利益		
新株予約権戻入益	241	185
特別利益合計	241	185
特別損失		
差入保証金・敷金解約損	18	－
固定資産除却損	65	－
減損損失	290	96
その他	7	1
特別損失合計	382	97
税金等調整前四半期純利益	2,677	3,351
法人税、住民税及び事業税	756	1,122
法人税等調整額	384	328
法人税等合計	1,140	1,450
少数株主損益調整前四半期純利益	1,537	1,901
四半期純利益	1,537	1,901

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,537	1,901
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	△130
その他の包括利益合計	6	△130
四半期包括利益	1,544	1,770
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,544	1,770
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,677	3,351
減価償却費	2,824	3,125
減損損失	290	96
のれん償却額	274	272
負ののれん償却額	△486	△486
退職給付引当金の増減額（△は減少）	60	65
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	37	60
ポイント引当金の増減額（△は減少）	26	40
受取利息及び受取配当金	△96	△70
支払利息	162	150
差入保証金・敷金解約損	18	－
固定資産除却損	65	－
売上債権の増減額（△は増加）	3,004	4,221
たな卸資産の増減額（△は増加）	△1,783	△1,878
仕入債務の増減額（△は減少）	2,035	△2,803
その他	△3,407	△1,873
小計	5,705	4,272
利息及び配当金の受取額	72	46
利息の支払額	△169	△157
法人税等の支払額	△2,899	△4,876
法人税等の還付額	535	705
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,245	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,565	△6,006
無形固定資産の取得による支出	△341	△525
敷金及び保証金の差入による支出	△747	△1,051
信託受益権の純増減額（△は増加）	△88	149
その他	200	209
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,542	△7,224
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	－	6,000
長期借入金の返済による支出	△3,423	△3,412
リース債務の返済による支出	△601	△760
自己株式の取得による支出	△0	△1
配当金の支払額	△640	△833
その他	△16	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,681	984
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△4,978	△6,250
現金及び現金同等物の期首残高	18,249	23,108
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,270	16,858

（４）継続企業の前提に関する注記

当第２四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日)

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

前第２四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	36,696	11,152	6,781	7,314	61,945	―	61,945
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	12	3	―	17	△17	―
計	36,698	11,164	6,785	7,314	61,962	△17	61,945
セグメント利益	632	545	555	775	2,509	△211	2,297

（注）１．セグメント利益の調整額△211百万円には、セグメント間取引消去1,592百万円、のれん償却額△266百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,537百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

② 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、主に店舗の閉鎖が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第２四半期連結累計期間においてはそれぞれ168百万円、61百万円及び37百万円です。

当第２四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額(注)１	四半期連結損益計算書計上額(注)２
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	40,226	11,604	7,170	8,424	67,425	―	67,425
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	13	5	―	20	△20	―
計	40,227	11,618	7,175	8,424	67,445	△20	67,425
セグメント利益	1,058	1,237	421	668	3,385	△302	3,083

(注) １．セグメント利益の調整額△302百万円には、セグメント間取引消去1,657百万円、のれん償却額△266百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,693百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

② 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」セグメントにおいて、主に店舗の移転が決定し回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第２四半期連結累計期間においては93百万円です。

③ 報告セグメントの変更等に関する事項

「２．サマリー情報(注記事項)に関する事項」の会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第２四半期連結累計期間の「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」のセグメント利益はそれぞれ９百万円、１百万円、４百万円及び７百万円増加しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第２四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日)

該当事項はありません。

（7）重要な後発事象

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主価値向上を目的として、平成24年11月８日開催の取締役会において、自己株式の取得及び消却について決議いたしました。

なお、詳細は本日別途開示しました「自己株式取得に係る事項の決定及び自己株式の消却に関するお知らせ」をご覧ください。